

報道関係者 各位

令和7年5月5日

【照会先】

社会・援護局 事業課 事業推進室

室長 野口 一夫（内線3412）

室長補佐 佐久間 勝彦（内線3475）

（代表電話）03(5253)1111

（直通電話）03(3595)2469

### 福岡大臣がパラオ共和国で戦没者の慰霊・献花を行い、遺骨収集現場を訪問 ～ メトゥール人的資源・文化・観光・開発大臣と会談し、遺骨収集を加速させることで合意 ～

福岡資麿厚生労働大臣は、5月4日から6日までパラオ共和国に出張中のところ、本日先の大戦で激戦地となったペリリュウ島に日本政府が建立した「西太平洋戦没者の碑」にて、慰霊および献花を行いました。

また、ペリリュウ島では、令和6年9月に確認された日本人戦没者の集団埋葬地（米国資料によれば埋葬者数1,086名）等を訪問し、現在進められている遺骨収集作業の現場の状況等を確認しました。

さらに、メトゥール人的資源・文化・観光・開発大臣と会談し、パラオ共和国における遺骨収集事業および日本人戦没者の碑等の維持管理に関するパラオ側の協力に謝意を述べました。この会談では、戦後80年が経過する中、ペリリュウ島の集団埋葬地における遺骨収集を加速するため、日本側は令和7年度の関係予算を倍増させて集中的に取り組むこととしていますが、令和8年度以降さらに遺骨収集を加速化させるために必要な協力をパラオ側に要請しました。

これに対し、メトゥール大臣からは、令和8年度以降、日本側がペリリュウ島の集団埋葬地における遺骨収集の取り組みをさらに強化し、派遣期間を更に倍増し一年間に渡って毎月作業を実施する場合にも対応できるよう、パラオ政府として最大限の協力（※）を行っていく旨の発言がありました。

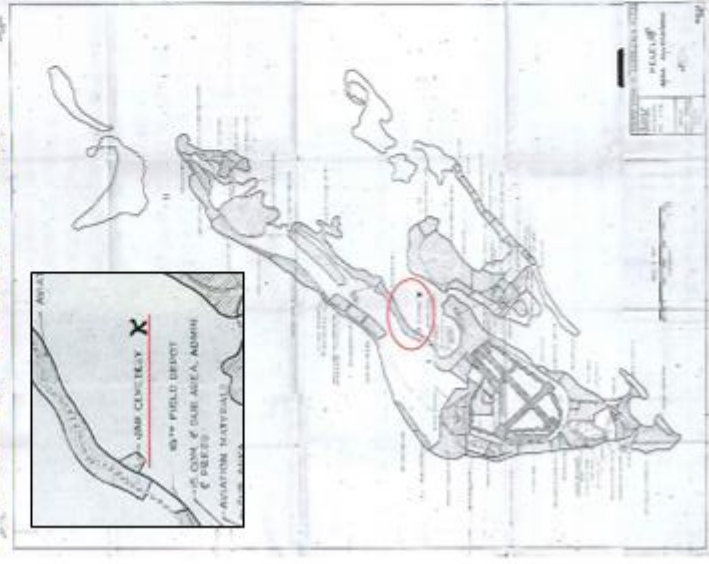
※パラオ共和国では、遺骨収集作業に文化歴史保存局（BCHP）の職員がモニタリングのために立ち会います。

厚生労働省は、今回の閣僚会談での合意を踏まえ、集団埋葬地における御遺骨の埋葬状況を見極める必要があるものの、おおむね令和9年度までに御遺骨の収容作業を概了させることを目指して、今後、パラオ共和国政府と緊密に連携しながら、ペリリュウ島で確認された集団埋葬地における遺骨収集を加速化させるための取り組みを具体化し、実行していきます。

# パラオ共和国ペリリュー島集団埋葬地の遺骨収集について

平成25年に水戸二連隊ペリリュー島慰霊会がペリリュー島に米軍が造営した集団埋葬地を示す地図を米海軍設営隊博物館から入手。平成26年に厚労省が埋葬者数が1,086名と記された資料を入手。平成29年に厚労省が集団埋葬地の位置情報（グリッド情報）が記載された資料を米国立公文書館から入手。これらの資料を基に現地調査を実施し、令和6年9月に集団埋葬地が確認され、令和6年度末までに19柱相当のご遺骨が確認されている。今後、ペリリュー島での遺骨収集の体制を強化し、集団埋葬地の遺骨収集を加速化させて行く。

## 集団埋葬地を示す地図



## 位置情報（グリッド情報）



CIMENTERY FOR ENEMY DEAD OPENED AT 0800 1 27 OCT AT ONE FOUR ONE WILLIAM ONE (10月27日8時に141W1の地点に敵の埋葬準備が完了した。)



141W1のWの後の数字1は下記のように時計回りに4分割した範囲を示す。

1	2
4	3

141Wは200ヤード×200ヤード  
よって141W1は100ヤード×100ヤード(91.44m×91.44m)の範囲となる。

## 現地の様子



※パラオ側との取り決めにより、考古学者立ち会いのもとで遺骨収集を実施

※ペリリュー島の戦没者数は約10,200名

※中央のガジューマルは令和7年2月に伐採済み